

2 結果

(1) 市町教育委員会生涯学習課等（敬称略）

事例1 各中学校単位で実施する思春期講座

市町	真岡市教育委員会生涯学習課
事業	市内の全中学校で実施する思春期学級

1 事業を始めたきっかけ

真岡市では、中学生の子をもつ保護者を対象にした思春期学級を、中学校単位で実施している。この事業は、平成15年度から平成19年度まで行われた文部科学省委託事業の家庭教育支援総合推進事業の中の思春期子育て講座の実施に始まる。平成20年度からは市の単独予算になり、各中学校で年1回、保護者会や参観日などの機会をとらえて、思春期の子育てに関する講座を学校の要望に合わせたテーマや講師を呼んで行っている。参加者には、子どもや家庭のこと、自分のことを考える機会を見つけてほしいと願っている。

2 活動内容

家庭教育学級（思春期学級）では、子どもをもつ保護者などを対象に、一定期間家庭教育に関する学習を行い、社会を見る目を養い、人としてのあり方を見つめ直すとともに、子どもの理解する力と心を育てている。家庭教育学級（思春期学級）に参加して、子どもや家庭のこと、自分のことを考える機会を見つけてほしいというねらいのもと、各学校で行事等に合わせ実施している。実施している主な内容は、思春期子育て講座、教育講演会、立志式記念講演会、ネットいじめ防止研修会、ふれあい学習デリバリー講座、生き方講話、薬物乱用防止教室、親子学び合い事業（携帯電話講習会）、などである。学校が中心となって運営し、保護者と生徒と一緒に参加している。



思春期子育て講座



P T A教育講演会



立志式記念講演会



教育講演会・ネット
いじめ防止研修会



教育講演会・思春期
子育て講座



生き方講話



思春期講座



親子学び合い事業
(携帯電話講習会)

行政としては、年度初め（5月）に担当者会議を行っている。前年度の講師一覧などの資料を配布し、各学校で活用できるよう情報提供をしている。事業実施中から実施後は、市内の全学校統一のアンケートを作成し、集計を行って学校へ結果を送っている。回収・集計に関しては担当者が行い、学校の負担軽減を図っている。年度末には、各学校から提出された実施報告書をまとめて次年度の活動に生かしている。

3 成果と課題

○成果

- ・各学校単位で行っているので、保護者のニーズに合った活動ができている。
- ・学校の実情に合っているので、充実した事業となっている。
- ・保護者にとって毎日のコミュニケーションを振り返る良い機会となっている。
- ・思春期の子どもをもつ親の関わり方のヒントとなっている。
- ・生徒だけでなく、保護者にとっても有意義な時間となっている。
- ・アンケートから家庭教育に対する意識の向上が見られるようになってきている。
- ・講師の選定をするときなどは、学校間での担当者による話し合いがされ、学校間のネットワークづくりができている。

○課題

- ・思春期学級への保護者の参加率が低い。
- ・実際に話を聞いてほしい保護者が参加をしてくれない。
- ・活動が学校単位なので、それぞれの学校ごとに課題がある。

4 その他

○今後の活動

- ・中学校ごとに思春期学級という形式で、継続して行っていく。
- ・担当者会議の際に、説明・伝達だけでなく、指導主事等に参加してもらい、さらなる啓発を行っていく。

（調査協力：真岡市教育委員会生涯学習課 主事 田中佑季）